

公共用水域水質の状況（河川）

沖縄県では公共用水域（河川・海域）を、それぞれ、類型を指定して水質の常時監視を行っています。類型とはランクのことで、各類型ごとに生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準（環境基準）が定められています。

河川水質の環境基準の一つにBOD（生物化学的酸素要求量）があります。

BODとは河川の有機物による汚濁の指標で、水中に有機物と酸素が存在すると微生物は酸素を利用して有機物を分解しますが、どちらかがなくなると分解が止まるという性質を利用して、一定条件下で微生物が消費した酸素の量を測定し数値化して汚濁の指標としたものです。類型ごとの基準値は表1のとおりで、数値が大きいほど汚れていることを表します。

表1 河川BODの環境基準値

類型	AA	A	B	C	D	E
BOD値 (mg/l)	1 以下	2 以下	3 以下	5 以下	8 以下	10 以下

BODを評価するには、BOD75%値を使います。これは、測定値を小さい順に並べ測定回数の75%となる回数の値（年12回測定する場合、9番目の値）の事で、この値が環境基準を達成しているかどうかを評価します。

図1は平成10年度の、各地域の代表的な河川のBOD75%値を示したものです。北部は羽地大川に代表されるようにきれいな川が多く、数値にも現れています。我部祖河川は、生活排水等の影響によりやや高い値を示していますがそれでも充分低い値と言えます。中部では比謝川は良い値を示していますが、天願川は生活排水等の影響が現れていて、南部の国場川・報得川の2河川は生活排水・畜舎排水等の流入でかなり汚染されています。

図2は国場川中流（真玉橋）での10年の経年変化です。少しずつ良くなっていますが、平成10年度時点では基準値は達成してはいません。これらの河川流域では、さらなる河川水質浄化対策として、下水道の整備や、合併処理浄化槽の導入、畜舎排水対策など、自治体及び住民の積極的な取り組みが望まれます。

図1 地域比較

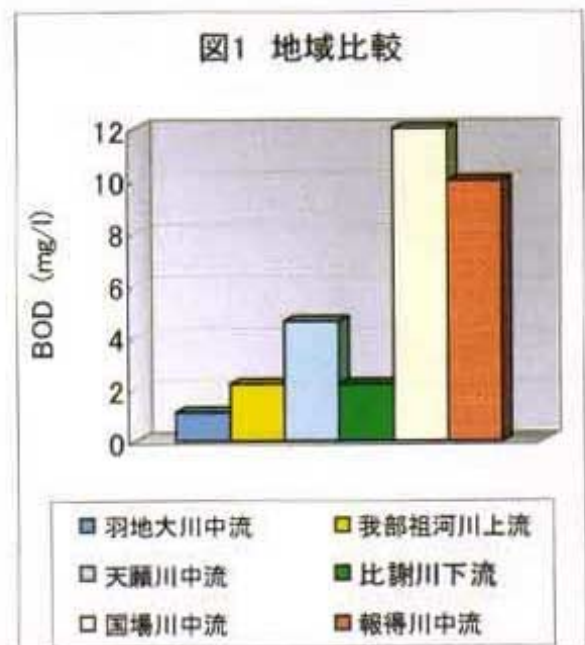


図2 真玉橋の経年変化

